

# 森林政策

愛知県における森林・林業の試験研究

日時：平成22年9月23日（木） 13:00～15:00

講師：三輪 公夫（愛知県 森林・林業技術センター所長）

## 概況

---



### ○愛知県における森林・林業の試験研究

1 森林林業技術センターの概要：昭和24年「林業試験場」を現尾張旭市に設置後、現新城市に移転。現在、林業試験場、材木育種場、林業研究所を統合し、平成15年「森林・林業技術センター」に名称が変更された。当センターは、敷地13.56ha、試験林49.59haと材木育種地15.44haからなる。職員18名（内9名研究員）で構成されている。業務内容は、施設管理、森林保全管理、林業技術研修等。また、林業経営、森林の多面的機能、材木改良及び種苗育成、きのこ等に関する研究を行っている。

2 試験研究とは：試験とは製品や材料の品質や信頼性を評価すること、また、研究とは、ある物事について考察、実験、観察、調査し、新しいことを発見し、事実を深く追求することである。そこで、当センターでの取組は、試験研究課題が、①地域に密着したものであること②実用的な技術開発に役立つこと、③約3年で解決できることを基本としている。さらに、研究では、低コストな人工林育成や林業生産技術開発、森林の多様性を生かせる広葉樹林等の造成・利用方法の確立、低コストで環境に調和した木材利用技術開発、安全で高品質なキノコ新品種や山菜類の新栽培技術開発など、4つの重点目標がある。

### 3 試験研究課題(紹介)

①木材生産における労働生産性の向上(高性能林業機械に関する研究):林業収益性を高めるため、3種の林業機械を組合せた作業システムの労働生産性の検証と本県の適合性を検討した。その結果、間伐の労働生産性の通常より1.5~2倍の労働生産性があったことから、本県の地形条件に適合していると考えられた。

②カワウから森林を守るには(被害実態と生息地管理):近年、県内でカワウが増加し、樹木や草本が巣作りと糞の影響で衰弱・枯死している。そこで人工巣台を設置すると営巣域拡散の抑制効果がみられた。また、複数の追出し手法(ロープ張り・缶たたき等)の組合せによる営巣域拡大抑制が可能と考えられた。

③花粉症対策への取り組み:スギ花粉症は大きな社会問題となっている。林業面での対策として、無花粉スギを作り出し、このスギの増殖法等を調べた。その結果、挿し木増殖法は有効であると考えられた。